

| No. | 患者 | | 1日投与量 投与期間 | 副作用 | |
|--------|----------|---------------|---------------|---------------------|--|
| | 性・ 年齢 | 使用理由 (合併症) | | 経過及び処置 | |
| 1 | 女 30代 | 不明 | 20mg 7日間 | 胎児動脈管収縮 | |
| | | | | 投与開始日： | 妊娠34週目の終わり，譲り受けたケトプロフェンテープ剤（本剤）を1日1枚使用開始。使用していた薬剤はケトプロフェン外皮用剤のみであった。 |
| | | | | 投与開始7日目： (投与終了日) | 妊娠35週目の終わり，1週間で本剤の使用終了。 |
| | | | | 出生当日： | 妊娠36週1日で救急搬送され，検査の結果，胎児に肺高血圧症，右心室系の拡大が見られたため，帝王切開にて出生。体重は3,421g，アプガースコアは8点/10点であった。胎児の動脈管の収縮があったものと疑われた。 |
| | | | | 不明： | 出生5ヶ月後までには，後遺症もなく回復。 |
| 併用薬：なし | | | | | |

| No. | 患者 | | 1日投与量 投与期間 | 副作用 |
|---------------------------------|----------|--------------------------------|---------------------------|--|
| | 性・年齢 | 使用理由 (合併症) | | 経過及び処置 |
| 2 | 女 20代 | 若年性関節 リウマチ, 疼痛増悪 [なし] | 投与量不明 ↓ 120mg 不明 | 羊水過少症 若年性関節リウマチ症状のためメトトレキサート, エタネルセプト, プレドニゾロンを併用していたが, 妊娠判明直後に, すべての投薬を中止した。その後, 関節症状の増悪があり, プレドニゾロンのみ再開。鎮痛はアセトアミノフェン内服で対応していた。 |
| | | | | 投与開始日 : 若年性関節リウマチの増悪による関節痛のため, 疼痛時に, ケトプロフェンテープ剤(本剤)を自己判断で使用開始。 |
| | | | | 不明 : 妊娠20週頃, 疼痛増悪のため, 本剤を両肘両手首の内側, 両膝に1日計6枚使用開始。 |
| | | | | 不明 : 妊娠20週3日, 定期の妊婦健診で異常はなかった。 |
| | | | | 発現1日目 : 妊娠23週3日, 定期の妊婦健診のため, 産婦人科受診。羊水がほとんどないことが確認された。AFIとしては測定不能, 最大深度でかろうじて2cmであった。胎児発育は正常範囲内, 胃泡と腎臓, 膀胱も確認され, 胎児腎尿路系の器質的異常は認めなかった。また内診上破水も否定的であったため, 原因不明の羊水過少と診断。管理入院。 |
| | | | | 発現2日目 : (投与中止日) 本剤の使用中止。プレドニゾロンとアセトアミノフェンの内服は継続。 |
| | | | | 発現3日目 : (中止1日後) 羊水量が次第に増加してきた。 |
| | | | | 発現9日目 : (中止7日後) 羊水量はかなり回復。胎児発育も良好であり, 退院。外来管理となった。 |
| | | | | 発現15日目 : (中止13日後) 妊娠25週3日, 羊水量は正常範囲となった。回復。 |
| | | | | 発現104日目 : (中止102日後) 胎児にも異常はなく, 妊娠38週となっている。 |
| | | | | 出生当日 : 妊娠39週, 母子ともに健康であり, 自然分娩により無事出産。分娩後は経過良好で退院した。 |
| 出生1ヶ月後 : 1ヶ月検診時, 母子ともに, 全く問題なし。 | | | | |
| 出生6ヶ月後 : 6ヶ月検診時, 特に異常は認められなかった。 | | | | |
| 併用薬 : プレドニゾロン, アセトアミノフェン | | | | |